

科目区分：人文・社会科学

授業科目名	言語と芸術（音楽と言語）				学期	曜日	校時
英語名	Language and Art (Music and Language)						
担当 教官名	山野誠之	単位数	2単位	必修 選択	選択	前期	火曜日 4校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>音楽論や音楽評論において用いられる専門用語の諸概念を理解させ、それらの適切な使い方に慣れさせるとともに、芸術音楽や民族音楽、宗教音楽などの生きた音楽の中にみられる「音楽性」と「言語性」の深いかわりについて理解を深める。</p> <p>導入として、日本語や外国語による音楽論・音楽評論の講読を行い、オペラ・オラトリオ、典礼音楽、民族（俗）音楽など「演奏の実際」を提示し、言語による音楽性の表出や表記、作曲や演奏にかかわるさまざまな問題を抽出することにより、考察の対象・方法を多面的に示唆する。本講義では主に西洋音楽の歴史の中で特に20世紀の音楽について触れる。歴史はそれを扱う方法によって種々の解釈が存在するが、音楽の歴史においても特に時代が今日に近くなればなるほどその評価および解釈は様々なものが存在する。本講義ではそれらを出来るだけ系統的に扱い、20世紀の主流となる音楽様式を把握することをそのねらいとした。</p>							
テキスト、教材等							
教科書は用いず、授業計画に沿って楽譜・文献などのプリント資料を配布する。また、CD・LD、ビデオテープおよび実際の演奏によって考察の対象を呈示する。参考とすべき文献は適宜紹介する。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	定期試験と課題レポートで60%、出席40%を考慮して行う。						
授 業 計 画							
第1回	オリエンテーション	担当教官の自己紹介、音楽に関する学生との対話					
第2回	音楽評論・音楽随想の講読(1)	現代日本の音楽評論					
第3回	音楽評論・音楽随想の講読(2)	R.シューマン『音楽新報』以後の西洋の音楽評論					
第4回	記された音と消え去る音	音の記憶、さまざまな楽譜、楽譜と楽語、記譜の正確さとあいまいさ、楽語の誤解と理解					
第5回	宗教音楽とそのテキスト(歌詞)	(1) 仏教の声明(しょうみょう)のテキスト、明楽の儒教的テキスト 神事芸能の失われたテキスト：春日若宮おん祭の細男(せいのお) など					
第6回	宗教音楽とそのテキスト	(2) キリスト教典礼音楽（聖務日課・ミサ）のテキストモテットの多言語的なおもしろさ ユダヤや東方の教会・イスラム教の古い旋律とテキスト					
第7回	演奏会用宗教音楽のテキスト	ヘンデル「メサイア」のテキスト、ケルビーニ「レクイエムなど					
第8回	オペラの愉しみ(1)	リブレットを読む愉しみとスコアを読む愉しみ					
第9回	オペラの愉しみ(2)	モーツァルト「魔笛」のリブレット、ワーグナー「指輪」の台本構成					
第10回	民族(俗)音楽のおもしろさ(1)	感情を演出するさまざまな言語表現、明清楽の高尚なレパートリーと唐詩					
第11回	民族(俗)音楽のおもしろさ(2)	言語と身体言語					
第12回	音楽と哲学	ギリシャの哲学者たちとその後継者が残した諸概念西洋中世の音楽観、リズムと旋法・トナリティ、和声の概念					
第13回	音楽の実例鑑賞	曲目は未定。音楽の実例を視聴しながら、レポートの構想を考える					
第14回	執筆課題「私の音楽論」	習得した多様な音楽用語・音楽概念を駆使してレポートを執筆する					
第15回	定期試験とレポート提出 (予習・復習に関する指示)						
<p>さまざまな言語による音楽用語が使われるので、辞典類を手元にそろえておくこと。 受講を機会に、ラテン語辞典を購入しておくことを勧める。 オフィスアワー：授業終了後受付ける。</p>							